

令和7年度 卒業証書・修了証書授与式

告辞

今年の冬は雪の日が多かったですが、最近は吹く風に春の訪れを感じるようになりました。今日、晴れて卒業式・修了式を迎えられる皆さん、誠におめでとうございます。教職員一同ならびに在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。また、今日の日まで、皆さんを支え励ましてこられたご家族やご親族の皆さまもさぞお喜びのことと思います。卒業生・修了生に代わりまして、これまでの温かいご支援に深く敬意を表しお祝いを申し上げます。

本日、本科卒業生188名、専攻科修了生30名が本校を巣立っていきます。皆さんは、中学校卒業後、多くの同級生とは異なり、高等教育機関である本校に入学し、実践的かつ創造的な技術者への道を選びました。1年生からの専門教育、多くの実験・実習やインターンシップ、そして力試しの場でもある様々なコンテスト等は、新鮮な体験であるとともに、初めのうちは苦勞し、戸惑いもあったかもしれません。今日ここに卒業・修了を迎えられたということは、この5年間、あるいは7年間で、皆さんが大きく、そして逞しく成長したと認められた証です。

卒業生の中には、マレーシア、マリ、モンゴルから4名の留学生がいます。故郷を離れ、異文化の中で言葉や生活環境の違いを乗り越え、勉強に励み、学業を全うされたことに心から賛辞を送ります。

振り返ってみると本日、卒業式を迎える皆さんの大半が入学された2021年4月は、新型コロナウイルス感染症の流行の真っただ中であり、大きな制約の中での門出でした。マスク着用や三密回避など行動が制限される中、新しい環境でのコミュニケーションに苦勞された日々もあったでしょう。2年前の1月には能登半島地震が発生し、やっと平常に戻った学生生活が影響を受けるのではと心配された方も多かったのではないのでしょうか。私が皆さんと共に過ごしたのは2年足らずですが、地震の被害による不便さや困難を傍らに置きつつ、目の前のことに真剣に取り組む様子に逞しさを感じました。度重なる悪天候に見舞われながらも臨機応変に対応し、フィナーレの花火まで見事にやり遂げた11月の紀友祭では、真摯に取り組む皆さんの姿に心を深く動かされました。専攻科生が築き上げた伝統が、本科の学生に確かに受け継がれていると感じています。

さて、皆さんは4月から新しい就職先や進学先へと進んでいきます。世界では心を痛める出来事が続き、社会の変化もこれまで以上に速くなっています。科学技術の進歩も目覚ましく、AIやロボットは身近な存在となり、空想の世界にしかなかった空飛ぶクルマや月面での生活なども、実現に向けて具体的に動き出しています。

そのような状況の中で、将来を見通すことは難しく、不安を感じることもあるでしょう。しかし、心配しすぎる必要はありません。皆さんが本校で学んだものづくりの基礎技術や専門性、そして幅広い教養は、どんな時代においても最大の武器となるでしょう。

そして、国際的な視野を広げることも重要です。建築家の安藤忠雄氏は「島国日本に住む人間の一番の弱みは国際感覚の欠如です。」と語っています。独学で建築を学び、今や世界的な建築家となった安藤氏は、若い頃に世界中の建築を見て回り、「世界の大きさと深さを意識した。」と述べています。私自身も若き日に海外で得た経験は、今でも貴重な財産です。初めてガウディの建築を見たときの感動は、その時の景色とともに今でも胸に焼き付いています。現在は、SNSやインターネットを通じて世界の情報が簡単に得られる時代になりました。しかし、本日卒業及び修了される皆さんには、ぜひ世界を自分の目で見て、肌で感じる機会を積極的に作り、グローバルな視野を育ててほしいと思います。

最後に一つお願いがあります。これからの人生において、困難に直面し、心が折れそうになることもあるでしょう。そんな時に自分を癒す手段をもってください。家族や友人とのおしゃべり、スポーツや趣味に打ち込む時間、好きなアーティストや推しのライブに出かけること、あるいは何もせずに静かに過ごすひとときなど、その形はどんなものでも構いません。自分に合った癒しの手段をいくつか持っていることは、心の余裕や他者への共感にもつながるはずです。

私は新聞の特集記事で、高専生に観てほしい映画として、「ニュー・シネマ・パラダイス」を紹介しました。この作品は私が建築を学ぶ一つのきっかけとなった映画です。物語の中で、映写技師が村を旅立つ青年に語る言葉があります。

「何をするにしても自分のすることを愛せ。子供の頃、映写室を愛したように」

この言葉を、新しい道に進む皆さんに贈ります。

本校は創立60周年を迎え、これまで約9600名の卒業生を社会に送り出してきました。先輩方は、国内外の様々な分野で活躍しており、私が若い頃に仕事のイロハを教えてもらった先輩も、石川高専の卒業生でした。皆さんには、本校の卒業生であることに自信と誇りを持ち、自分の選んだ道を愛し、夢を抱き続け、力強く歩んで行くことを期待しています。

本日は誠におめでとうございます。

令和8年3月19日

石川工業高等専門学校長

富田 大志